

なんどあ ～米・米 調査隊～

目 標

- ・米作り農家との交流や勤労体験を通して、その地域で暮らす人々の生き方や考え方を
知る。
- ・米作りの実体験を伴った収穫の喜びを感受し、食への感心を高める。

育てたい力

- 勤労体験を通して、米作り農家の人々の工夫や苦勞、そこで暮らす人々の生き方や
考え方を知ることによって、自分の生き方や考え方をより豊かなものにしていく
ための人間性や社会性を育てる。
- 協働作業や食を通して得られる収穫の喜びを共有し、感謝する心を育てる。

主な学習活動（総合的な学習の時間：15 時間）

田植え体験

（5 月）

調査隊報告会

（6 月）

稲刈り体験

（10 月）

お米の贈呈式

（11 月）

しのつ米給食

（12 月）

- ・篠津土地改良区（水土里ネットしのつ中央）
と協力し、学校での事前学習に加え、現地の
「泥炭資料館」のスライド・展示で水田作り
の取り組みや苦勞を学んだ。その後、改良区
や近隣の農家の方々と一緒に田植え体験を
行った。
- ・学校ではバケツ稲を育て、その様子を観察した。
- ・米について知っていることを交流し、米の歴史や
育て方、田んぼに棲む生き物や米を使った料理など
『米』をキーワードに調べたことを報告し合った。
- ・これまで改良区の方々が稲を大切に育ててきたこ
とを知る。鎌の使い方や稲穂の束ね方、稲架がけの
仕方を事前に学習し、改良区や近隣の農家の方々と
一緒に実際に稲刈りの体験を行った。
- ・土地改良区の代表の方々が来校し、精米した
米を贈呈していただいた。4 年生は感謝の
会を企画しお礼の気持ちを伝えた。
- ・4 年生が考えた給食のメニューを全校で食
べた。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「田植えの水田のにゆるった感じが初めてでした。でも、植え始めると楽しくなって、あっという間に終わってしまいました。ほんの少しなのに腰が痛くなって、農家の人は大変だなあと思いました。」「稲刈りでは、稲を束ねる仕事が一番好きでした。きつく結ばないとほどけてしまうので、やりがいがありました。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

実際に田植えや稲刈りを体験できたことで、米作りの大変さや工夫を実感しながら学ぶことができた。また、普段以上に米の美味しさを味わうことができた。また、米についてまとめた新聞をもとに報告会を行うことで、表現する力の高まりも感じることができた。米の贈呈式では、自主的に感謝の会を企画・運営することができた。これらの取組を通じて、米の生産者の営みの価値を感じることもできた。

体験先、関係機関

篠津中央土地改良区（当別町）